

**CASBEE 広島 2016年版**  
**広島銀行 新本店ビル 本店棟**

■使用評価マニュアル CASBEE 広島 2016年版  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		竣工段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄			評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>4.1</b>
<b>Q1 室内環境</b>						0.40	-	-	<b>4.0</b>
<b>1 音環境</b>					<b>4.0</b>	0.15	-	-	<b>4.0</b>
1.1 室内騒音レベル					<b>3.0</b>	0.40	<b>4.0</b>	-	
1.2 遮音					<b>5.0</b>	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能		T-2以上			5.0	0.60	5.0	-	
2 界壁遮音性能		Dr-45(TLD-50)以上の遮音間仕切を主要間仕切に使用			5.0	0.40	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					3.0	-	4.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					3.0	-	3.0	-	
1.3 吸音		事務室の床: タイルカーペット、天井: ロックウール吸音板の使用			<b>4.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-	
<b>2 温熱環境</b>					<b>4.2</b>	0.35	-	-	<b>4.2</b>
2.1 室温制御					<b>4.2</b>	0.50	-	-	
1 室温					3.0	0.38	3.0	-	
2 外皮性能		窓: SC=2.0程度、U=3.0程度			5.0	0.25	3.0	-	
3 ゾーン別制御性		冷暖同時エアコンにて細かなゾーニングで冷暖選択が可能			5.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御					<b>3.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-	
2.3 空調方式		主要な執務エリアに天井空気放射併用型システムを導入			5.0	0.30	4.0	-	
<b>3 光・視環境</b>					<b>3.5</b>	0.25	-	-	<b>3.5</b>
3.1 昼光利用					<b>1.8</b>	0.30	-	-	
1 昼光率					1.0	0.60	3.0	-	
2 方位別開口						-	5.0	-	
3 昼光利用設備					3.0	0.40	3.0	-	
3.2 グレア対策					<b>4.0</b>	0.30	-	-	
1 昼光制御		庇・ブラインドによるグレア制御			4.0	1.00	4.0	-	
3.3 照度		オフィスエリアは500Lxに設定			<b>4.0</b>	0.15	<b>4.0</b>	-	
3.4 照明制御		昼光制御、画像センサによる人の不在検知制御			<b>5.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	-	
<b>4 空気質環境</b>					<b>4.1</b>	0.25	-	-	<b>4.1</b>
4.1 発生源対策					<b>4.0</b>	0.50	-	-	
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆をほぼ全面的に採用			4.0	1.00	4.0	-	
4.2 換気					<b>3.6</b>	0.30	-	-	
1 換気量		30m <sup>3</sup> /h/人以上の換気量を確保			4.0	0.33	4.0	-	
2 自然換気性能					3.0	0.33	4.0	-	
3 取り入れ外気への配慮		汚染源の無い方向とし、6m以上排気とは距離を確保			4.0	0.33	5.0	-	
4.3 運用管理					<b>5.0</b>	0.20	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視		中央にてCO <sub>2</sub> 濃度を監視可能			5.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御		喫煙室の計画			5.0	0.50	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>					-	0.30	-	-	<b>4.4</b>
<b>1 機能性</b>					<b>4.3</b>	0.40	-	-	<b>4.3</b>
1.1 機能性・使いやすさ					<b>4.0</b>	0.40	-	-	
1 広さ・収納性					3.0	0.33	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応		OAコンセント容量60VA/㎡以上確保			5.0	0.33	4.0	-	
3 バリアフリー計画		建築物移動等円滑化基準を満たす			4.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性					<b>4.6</b>	0.30	-	-	
1 広さ感・景観		事務室天井高さ: 2.8m			4.0	0.33	3.0	-	
2 リフレッシュスペース		リフレッシュスペース、自販機置場の計画			5.0	0.33	-	-	
3 内装計画		モックアップの実施とインテリアパースによる事前検討			5.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理					<b>4.5</b>	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		内外装に防汚性の高い仕上を採用、風除室扉間距離の確保等			5.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		ゴンドラの設置、洗い場等の確保			4.0	0.50	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>					<b>4.6</b>	0.30	-	-	<b>4.6</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振					<b>5.0</b>	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		建築基準法50%増の耐震性の確保			5.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		免震構造の採用			5.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数					<b>3.8</b>	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数					3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		アルミカーテンウォールの採用			5.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔					3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		屋外露出、厨房排気などにガルバリウムダクトを採用			5.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給排水に一般配管用ステンレス鋼管及び塩ビライニング鋼管(B・C)を採用			4.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔					3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性					<b>4.8</b>	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		電気ガス併用分散、重要度による使い分けを計画			5.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		節水型機器、緊急排水貯留槽の設置			4.0	0.20	-	-	
3 電気設備		特高変圧器2重化、重要電源2重化			5.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		耐震クラスSランクで計画			5.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		引き込みルートの3ルート化を図っている			5.0	0.20	-	-	

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>4.5</b>	0.30	-	-	<b>4.5</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>4.6</b>	0.30	-	-	
1 階高のゆとり			5.0	0.60	3.0	-	
2 空間の形状・自由さ			4.0	0.40	4.0	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>5.0</b>	0.30	<b>4.0</b>	-	
事務室階高:4.3m							
壁長さ比:0.3以下							
事務所床の積載荷重:4.900N/m <sup>2</sup>							
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>4.2</b>	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			5.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性			5.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			5.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			4.0	0.20	-	-	
システムトイレの採用等による更新容易化							
事務室へのシステム天井とOAフロアの採用							
搬出入ルートの確保							
バックアップスペースを確保							
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.30	-	-	<b>4.1</b>
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮			5.0	0.40	-	-	5.0
ガラスカーテンウォールの四周正面ビルとして景観に配慮							
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>4.0</b>	0.30	-	-	<b>4.0</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			5.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
広島県産材の利用やピロティ空間の計画							
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.9</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40	-	-	<b>4.3</b>
1 建物外皮の熱負荷抑制			4.2	0.20	-	-	4.2
複層ガラスの全面採用等							
2 自然エネルギー利用			5.0	0.10	-	-	5.0
エコポイドによる自然換気の採用							
3 設備システムの高効率化			4.2	0.50	-	-	4.2
[BE][BEIm]: 0.68							
4 効率的運用			4.5	0.20	-	-	4.5
集合住宅以外の評価			4.5	1.00	-	-	
4.1 モニタリング			5.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			4.0	0.50	-	-	
BEMS見える化によるモニタリングシステムを採用							
BEMS見える化を利用した性能検証を計画							
集合住宅の評価			3.0	-	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30	-	-	<b>4.0</b>
1 水資源保護			3.8	0.20	-	-	3.8
1.1 節水			4.0	0.40	-	-	
節水型機器を採用							
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.7	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			4.0	0.70	-	-	
雨水利用システムの採用							
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			4.1	0.60	-	-	4.1
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			5.0	0.20	-	-	
高炉セメントの採用							
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			5.0	0.20	-	-	
再生クラッシュヤラン等の採用							
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			5.0	0.20	-	-	
OAフロア・スチールパーティションの採用等							
3 汚染物質含有材料の使用回避			4.3	0.20	-	-	4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			5.0	0.30	-	-	
製品安全データシートにより監理							
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	-	
1 消火剤			4.0	0.33	-	-	
窒素ガス消火の採用							
2 発泡剤(断熱材等)			5.0	0.33	-	-	
ノンフロン断熱材の使用							
3 冷媒			3.0	0.33	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30	-	-	<b>3.4</b>
1 地球温暖化への配慮			4.1	0.33	-	-	4.1
高効率システム、自然換気等により省CO2を実現							
2 地域環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			4.0	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			4.0	0.25	-	-	
広島市指導要綱に基づく雨水流出量の抑制を実施							
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制			5.0	0.25	-	-	
適切な量の駐車・駐輪台数の確保							
4 廃棄物処理負荷抑制			4.0	0.25	-	-	
ゴミ庫・分別スペースの確保							
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	0.33	-	-	
2 振動			3.0	0.33	-	-	
3 悪臭			3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			5.0	-	-	-	
3 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70	-	-	
2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	